



ドイツは、時に雨の日もありますが、暑くなく、寒くもなく、実に快適な夏の日々が続いています。お元気でいらっしゃいますか？

### ～夢～

私は先日夢を見ました。それがあまりにも象徴的な夢だったので、ちょっと長くなってしまいますが、是非皆さんにもお分かちさせていただきたいと思います。

その日、私は小高い山の上にある教会でコンサートをしました。

コンサートが終わったのは夕方、窓から見下ろすと、黄昏色に染まった街並みが一望できました。そこにはスラブの国々に見られるような、群青色のしっくい塗った小さな質素な家が並んでいました。その中のここかしこに、夕暮れ色よりもっと濃い紅色の小さな宮殿のような、それはそれは美しい建物が点在していました。その光景に、私はしばらく見とれてしまいました。そして、全ての家から、一番質素な家からも、窓から美しい金色の温かい光がもれていました。

「ここがもし天国だとしたら、私はあの一番質素で小さな家に住まわせてもらえればそれで満足だわ」、と思ったほど、どの家にも、愛が一杯満ちているのを感じました。

それから荷物の整理を始めましたが、私は、不思議なことにスーツケースを持って来ておらず、持ってきた荷物が、何と4つの大きなポストンバックになりました。これを全部手で持って帰ることはできません。そこで、教会の人に、宅急便で送ってもらえないかと尋ねました。ところが、その町には宅急便はないというのです。そんなはずはないと思い、外へ出て、近くの八百屋のご主人に聞きました。しかし、親切そうな八百屋のご主人も、「この町には宅急便はないよ」と言うのです。そして、こう付け加えました。「でも、町の門を出て、門から続く道をまっすぐ一時間程歩いたら、別の町の集落が見えてくる。そこに行けば宅急便を送ることができるよ」。

AKMMのスタッフが2人、私の後ろから、4つのポストンバックを、教会から八百屋の入口まで「おお、しんど、おお、しんど」と言いながら引きずり運んでくれましたが、これから3人で1時間もかけて、4つの荷物を隣町まで歩いて運ぶこともできず、途方にくれてしまいました。その時、八百屋の優しい笑顔の奥さんが中から急いで出てきてこう叫びました。「イエス様が来てくださいました

よ！もう大丈夫！！」その瞬間、3人とも、えも言われぬ安堵感に包まれたのです。

その時、目が覚めました。すべて夢だったのです。

けれども、安堵感、平安は、目が覚めてからも変わりませんでした。「神様、素晴らしい夢を見せてくださって、ありがとう！感謝します！感謝します！」と、ベッドの上で、主に手を合わせて、しばらく感謝の祈りを捧げました。

ベルギーから戻ってから、私は、原稿書き、キリスト者の集いやローマのコンサートの準備、CDジャケット作成、税金申告などのたくさんの仕事が重なっていました。そんな時、親友が病気で倒れたため、時間を作っては彼女の世話に行っていたのです。夢を見たのは、退院したばかりのその友のために、かなりの量の食糧を、リュックサックと肩かけ袋に詰め込んで持って行き、自分の限界を超えた重さだったのか、家に戻ってから肩の痛みが激しくなり、軽いリュウマチも出て、なかなか寝付けない夜のことでした。こんなことになることなら、車付きの小さなスーツケースでも持って行くべきだったと気づきましたが、後悔先に立たずです。



けれども、神様が夢を通して示してくださったのは、もっと、霊的なことでした。それは、私が、気付かぬうちに、大きな荷物を背負い込んでいたことです。それは、仕事の量ではなく、プレッシャーという重荷でした。度々プレッシャーの中にのめりこんでは主に立ち返り・・・ということ、一体私はこれまで何度繰り返してきたのだろう、と、ほんとうに自分の弱さに情けなくなってしまう。けれども、その弱い私を愛の主は憐れんでくださり、素晴らしい夢を見せてくださいました。



以来、いつも主を覚えて、祈りながら、ひとつひとつの準備に向かうようになりました。プレッシャーを感じそうになる時には、イエス様に立ち返り、聖書を開き、イエス様に伺い、イエス様と語り合い、出来ないこと、しなくてよいことを、主から知恵をいただいて判断できるよう、よく祈るようになりました。逆に、計画外のこと、突発的なことが生じた時には、それがどんなに忙しい時でも、主のお心と一つにさせていただきながら、愛をもって、判断、行動できる者でありたいと願っています。

あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。  
(マタイ 6:21)

左のセラミックは、2週間前、オランダのペイトン朝子さんの羊小屋で行われた、ヘレーンのセラミック展覧会の作品のひとつ。ヘレーンと彼女の他の作品、そして、彼女の感動的な証しは、またの機会に、是非ご紹介させていただきたいと思っています。



### ●お祈りください

- 8月5日～9日、いよいよ、フィンランドにて『第26回ヨーロッパ・キリスト者の集い』が開催されます。参加者が、心をひとつにして、主を賛美礼拝し、主にあって交わり、神の栄光が現される時となりますように。求道者の参加者が救いに導かれますように。私は、ミラノの内村まり子さんと、賛美コーディネーターとして奉仕させていただきますので、主が、この者を、へりくだって仕えるしもべとして整えてくださいますように。

- 8月17日、ローマ華人教会で行われる聖会の最終日、賛美コンサートをさせていただきます。500人ほどの、ローマ在住の中国人、台湾人が集まり、若者の参加も多いそうです。テーマは、「人生と宣教」です。主が、この者を、華人の中で、ひとりのしもべとして用いてくださり、霊とまことをもって主を賛美し証しすることができますように。

それでは、今回は、8月の下旬にメルマガを送らせていただきます。

日本の皆さまは、暑さの中、ご健康が守られますようにお祈りしています。

主の平安と恵みが、皆さまとともにありますように！

工藤篤子